高崎市立堤ヶ岡第二小学校建設設計業務委託プロポーザル

地域の歴史に根差し、児童がいきいきと生活する学校をつくる

有限会社ナスカー級建築士事務所

01　地理的条件と登下校ルート：

冬場の激しい季節風対策　■防風林と校舎配置による教室への土埃と西側住宅地への影響の軽減　■車のアクセスと徒歩によるアクセス　■バイパスの横断と通学路の安全　■２校を結ぶ天王川沿いの緑道整備　■分離新設後の２学校区が２校を共有するアイディア　■集落と農地、異なる立地が相互補完する　■榛名山、赤城山、妙義山、周辺の地理地形の理解　■エコスクール整備

02　地史的文脈と地域学習の拠点：

古墳時代の水田、国府跡　■浅間山噴火の降灰による養蚕への転換　■旧東山道、旧三国街道沿いの歴史的リソース　■エコミュージアム構想と地域学習のコア施設としての学校　■周辺を歩いて廻る教育

03　小学校を取り巻く今日的背景：

「開かれた学校」と「安全・安心」のジレンマ　■「裏」をつくらない校舎配置　■敷地への入り口と校庭を見渡せる職員室　■保健室・用務員室・給食室などの配置と活用　■地域開放ゾーンは１階に集約、教室は原則として２階へ　■地域の人々による目配り、気配りのしやすい校舎計画　■小学校施設整備指針

04　学校教育の機能的要請：

少人数教育に対応でき、「基礎・基本」の充実を約束するスペース　■「コミュニケーション力」の向上を約束するスペース　■「地域社会」との結びつきを約束するスペース　■群馬県の障害児統合教育に合致させる開かれた教室　■学習成果の履歴が常設展示できるスペース　■ワークショップ型の実践による異学年交流が容易な設計　■幼稚園・保育園との連携

05　生活の舞台としての学校空間：

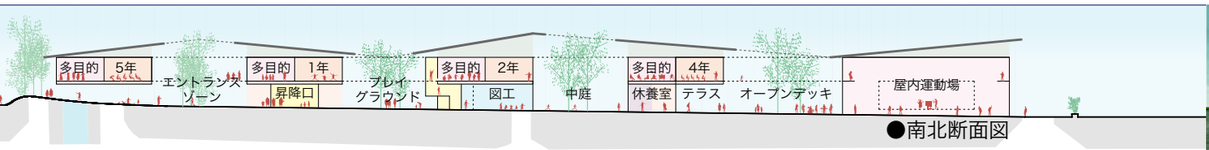
教室を密室王国化しない　■学級崩壊を抑止するオープンスペースの活用　■子どもの成長過程を親も見ることができる　■ユニバーサルデザインを自然に体得できる学校　■リサイクル活動の基地　■弱者の居場所から発想する姿勢　■ＯＦＦの時間を考えた空間　■学童保育スペース　■冬場の下校時の暗さに対する配慮

06　将来的変容に応える柔軟性と環境的提案：

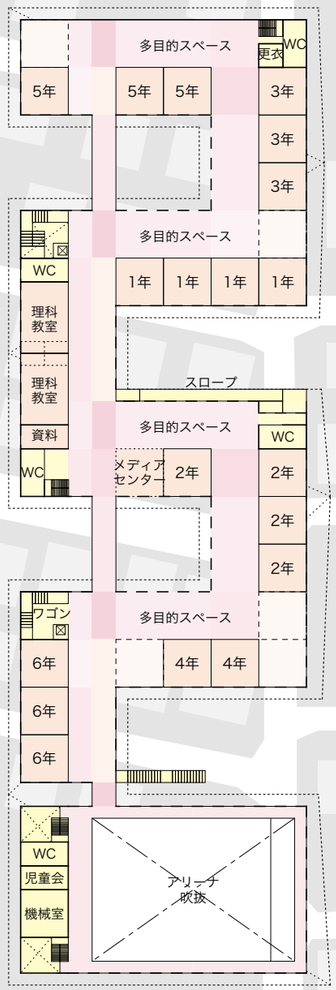
学級数の増加、学年別教室の再配置、学年構成の変更　■不便な別棟増築をせずオープンスペースを活用する　■堅牢なスケルトンと臨機応変なインフィル　■自然換気と自然素材を活用したシックスクール対策　■自然エネルギー利用による室内空間の快適化　■大屋根による断熱性能の向上と雨水処理　■雨水の有効活用とライフサイクルコストの低減　■学校環境衛生基準　■太陽光発電　■教育的な屋上緑化　■ルーバーによる西日対策

07　住民が参加して学校をつくる：

児童・保護者・教職員を対象としたワークショップの提案　■地域の特性を活かした学校教育の専門家の起用　■子供たちが内的な動機付けを行える学校づくりへの参加　■みんなが完成を心待ちにできる学校建設プロセス　■開かれた学校



●南北断面図



●2階平面図

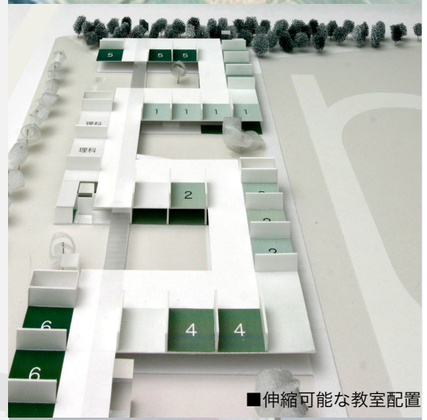
※教室の配分は平成21年度開校時を示す

●配置図・1階平面図

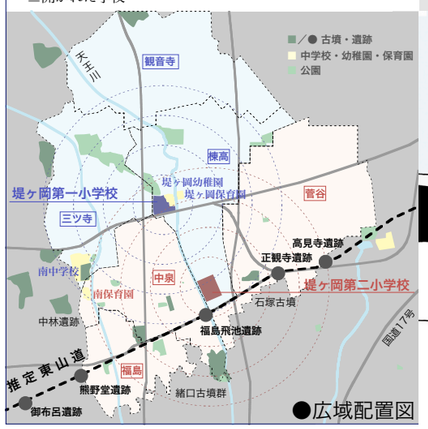
□面積表

校舎・２階	4,224㎡
１階	2,278㎡
合計	6,502㎡
給食室	250㎡
屋内運動場	1,204㎡

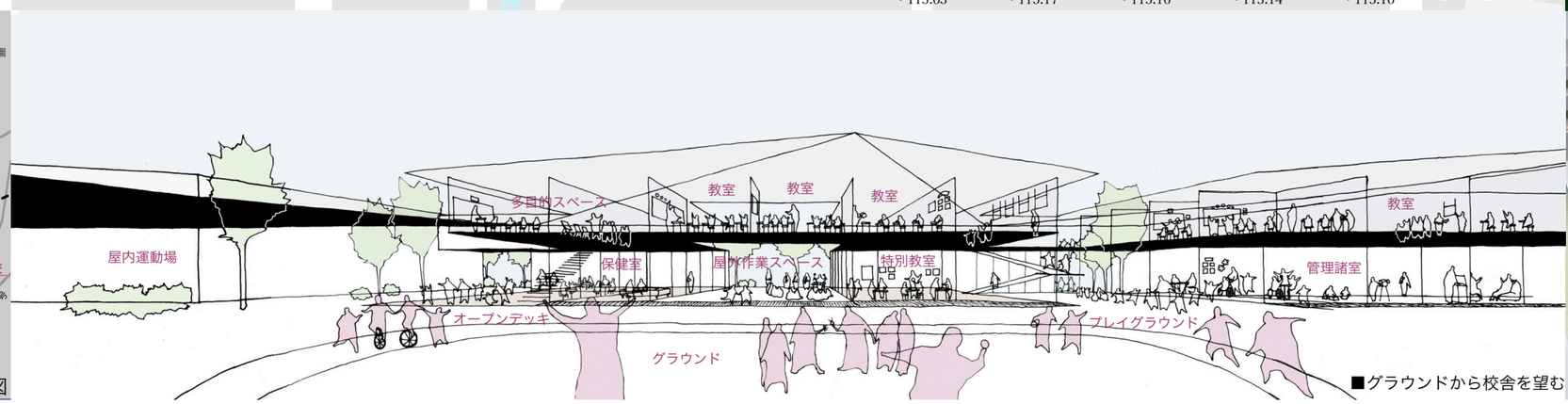
■校舎全体を山並みのような屋根が覆う



■伸縮可能な教室配置



●広域配置図



■グラウンドから校舎を望む

■異学年交流を盛んにする多目的スペース